

# 九州のファンド・地銀



ドーガンが提携したコンサル会社はインドで消費者調査などを手掛けている

## 海外進出支援を強化

九州のファンドや地方銀行が地元企業の海外進出を支援するサービスを強化している。企業の再生支援などを手掛けるドーガン・アドバイザーズ(福岡市、森大介社長)が海外進出コンサルティング会社と提携したほか、西日本シティ銀行も子会社に専門部署を設置した。地場の中堅・中小企業は現地の市場や法制度などの情報が不足していることが多い。早い段階からの支援で、資金需要の取り込みを狙う。

ドーガンは10日、新興国での市場調査や参入支援を手掛けるエルエス・パートナーズ(東京、新宿、松野小百合社長)と企業の海外進出支援で提携。社内に「ビジネスソリューション部」を立ち

**ドーガン** コンサルと提携  
**西日本シティ銀** 子会社に相談室

上げ、エルエスと連携して進出を検討している企業の支援にあたる。エルエスはインドのムンバイに現地法人を持ち、日本企業へのコンサルティングや貿易業務を手掛けるほか、38カ国の

コンサル会社や法律事務所などと協力関係を持つ。両社は年内にもシンガポールに共同出資会社を設け、情報収集を始めたが考え。まずは年5件程度の契約を目指す。1件あたりの手数料は200万〜300万円程度。将来的にはドーガンが全額出資しているドーガン・インベストメンツ(福岡市)の運営で海外進出支援ファンドを立ち上げ、企業の資金需要に応えることも検討している。

西日本シティ銀は4月1日付で子会社NCBリサーチ&コンサルティング(福岡市)に「国際コ

ンサル室」を設置した。海外駐在経験を持つ同行の人材が現地ネットワークを活用、相談内容に応じて、現地の弁護士や会計士を紹介する。「現地の提携先探しや市場調査など、中堅・中小企

業には実際のビジネスに至る前段階のニーズが多い(西日本シティ銀の広報担当)。このほか、十八銀行は損保ジャパンと海外進出企業に対する医療情報の提供や駐在員の医療支援などで提携した。

九州経済産業局によると、九州企業の海外進出件数(2010年)は全国の5%にとどまっており、輸出額や人口などが全国の1割を占める状況と比べると低い。金融機関は今後、海外進出を目指す地元企業が増える

とみて、サービスの拡充を急いでいる。

## 海外進出支援にドーガン参入へ

東京の企業と提携

企業の再生支援などを手掛けるドーガン・アドバイザーズ(福岡市)は10日、海外進出などを支援する事業を新たに始めると明らかにした。九州でも、成長著しい新興国

などを目指す中堅・中小企業が増えており、海外事業支援の専門会社と業務提携して地場企業の成長戦略を後押しする。新興国を中心とした海外事業のコンサルティング会社、エルエス・パートナーズ(東京)と同日付で業務提携。両社の強みを生かしながら、企業のニーズに応じて海外での事業展開や市場調査、M&A(企業の合併・買収)などを支援する。既に進出している企業には

出支援にも力を入れたいとしている。

販路拡大や広告宣伝をサポートする。エルエス社は、国連やドイツ政府系シンクタンクで勤務経験がある松野小百合社長(北九州市八幡西区出身)が2009年に設立。野村総合研究所や東京大学とも取引があり、これまでに約30社の海外進出などを手掛けている。エルエス社は、インドに海外進出コンサルタン

トや貿易の関連会社があり、インドや中東への進